◆新技術定着試験事業

ヒトエグサ養殖試験

水産業改良普及センター本部駐在　中村勇次

1．目的

ヒトエグサは、県内では北中城や恩納村などで養殖されており、北部の沿岸海域でも小規模で養殖が行われている。ヒトエグサは、モズクと違って供給が需要を上回っていることから販売に関してはあまり問題とならない。これは、天然物の採取や養殖においても天然採苗に頼っていることから、気候の変動等により生産量が安定しないことが原因となっている。北部地区において、技術指導が必要な地区においてヒトエグサ養殖指導を行った。

2．材料及び方法

ヒトエグサ養殖は、伊江村、羽地地区（屋我地島）、今帰仁村（古宇利島）、本部町、金武町、伊是名島、伊平屋島の北部７地区で営まれている。このうち指導が必要な伊江島、金武町において、巡回による技術指導を実施した。また、金武町においては、技術交流として北中城村のヒトエグサ養殖漁場、本部町の漁場視察を実施した。

3．結果

伊江島は、３年前から養殖を開始しており、島の西側のヒトエグサ養殖漁場（特区第９２号、通称：しゅうべ）と魚類養殖場近くの２カ所で養殖を行っていた。しかし、しゅうべの方が養殖に適していることから、今期はしゅうべのみで養殖を行うことにした。10月29日に伊江漁協渡久地氏としゅうべに養殖網の沖出しを行った。今回は試験的に１枚張りで７枚の網を沖出しした。前年は一度網の掃除を行ったのみで、順調な生育であったこと、また、波浪が強い海域でもあることから最初から一枚張りで種付けを行った。伊江島は本島北部の他地区と比較しても種付きは良好であることから、省力化も兼ねての養殖手法として試験を実施した。11月21日にヒトエグサ養殖漁場調査を行ったところ、１枚張りによる網張りをして３週間弱が経過しているが、まだ種の着生は確認できなかった。ヒトエグサ養殖漁場の東側の網は汚れ等はなかったが、西側の網に泥状の汚れが着生していた。付近の岩盤にもヒトエグサの着生がみられ、斜路付近のヒトエグサは１～２㎝まで成長していた。2月12日から13日にかけてヒトエグサ養殖漁場調査を実施したところ、網のレベルがヒトエグサ生育層より若干低かったことや５枚セット張りではなかったためか生育は思わしくなく、泥及び藍藻と思われる雑藻で網が被われていた。網の清掃をしながら一部の網レベルを上げてみて様子をみることにした。3月24日に伊江漁協にてヒトエグサ養殖勉強会及び養殖指導を実施した。しゅうべで１枚張りにしてある養殖網は、まばらに芽出ししていたカ所はあるものの全体的に生育は悪かった。藍藻と思われる雑藻や泥等の付着もあり、今後は、５枚張りによる天然採苗と定期的な網洗浄が必要だと思われる。その後、伊江漁協２階研修室にてヒトエグサ養殖勉強会を開催した。参加者は、漁業者２名、漁協職員２名と少なかったが、ヒトエグサ養殖を希望する若い漁業者の参加があった。今後、伊江島にヒトエグサ養殖が定着する足がかりとなることを期待したい。

11月14日に本部町備瀬のヒトエグサ養殖漁場調査を行った。同養殖場は本部漁協組合員の天久三男氏が養殖を行っており、9月30日（旧

暦8月15日）頃と10月15（旧暦9月1日）頃に併せて約100枚の網を沖出ししてあった。天久氏は、リボン採苗網を使用した採苗を以前から実施しており５枚１セットで網を張っている。９月末に沖出しした約30枚の網からはヒトエグサが順調に芽出ししていた。12月13日に本部町備瀬にてヒトエグサ養殖状況調査を実施した。調査には、金武町でヒトエグサ養殖を営んでいる仲田弘氏も同行した。備瀬で養殖を実施している天久氏は収穫作業を行っており、収穫終了後仲田氏を含めて漁場案内をしていただいた。日頃の網のレベル調整や乾燥を防ぐための２枚張りなど仲田氏は非常に参考になったとのことであった。天久氏は、12月3日から収穫を開始しており、前半の収穫物は生凍結製品へ回していたが、現在収穫したヒトエグサは乾燥製品に加工する予定とのことであった。

11月15日に北中城地先のヒトエグサ養殖状況調査を実施した。金武漁協ヒトエグサ養殖漁業者仲田氏、金武漁協職員与那嶺氏、元普及センター長瀬底氏も同行した。佐敷中城漁協北中城支所にて支所長田仲氏を交えてヒトエグサ養殖に関する意見交換を行った。今年度に種付けした北中城の種網購入について仲田氏から依頼があった。その後、瀬底氏の案内で北中城の漁場を見学した。仲田氏は金武町地先でヒトエグサ養殖を行っているが雑藻により生産が不調であるため、北中城の養殖状況が大変参考になったとのことであった。

12月5日に金武町にてヒトエグサ養殖状況調査を実施した。金武町奥首川河口で養殖が行われているが、数年前から雑藻が増えたことにより養殖が失敗に終わっているとのこと。年度途中からリボン採苗による採苗を実施したところ種付きは良好であった。漁場の特性なのか雑藻や流れ藻は相変わらず多い状況なので、レベル調整による雑藻対策を行うことにした。リボン採苗網は本張りへ移行しており、場所によってはヒトエグサが非常に濃い緑色となっていた。海域特性として栄養価は高いが、雑藻が乗りやすい漁場であることから金武町地先に適した養殖手法を模索することになった。1月18日に金武町億首川河口で養殖されているヒトエグサ養殖指導を実施した。金武漁協の仲田氏に漁場を案内してもらい、養殖網を確認したところ、一部種付けがまばらになった網があったが、全体として順調に養殖が行われていた。昨日も海苔摘み機による収穫を行ったとのことで、現時点で約800kg（脱水後生）を収穫しており、今期で１トン弱の生産予定とのことであった。金武町地先では平年２月頃まで収穫できるとのことなので、あと１回の収穫で今期の生産を終了するとのことであった。仲田氏は、網の上下による雑藻対策、リボン採苗法、北中城での養殖視察を通して来期以降さらなる増産をしたいと意気込んでいた。

４．考察

どの地区でもヒトエグサの販路は確保されているようなので、養殖指導と併せて品質安定に向けた指導を行う。出荷に関しては、乾燥と冷凍のメリットとデメリットを勘案したうえで出荷形態を検討する必要がある。

伊江島西側漁場しゅうべの様子

伊江島しゅうべの採苗作業の様子

伊江島　３月時点でも生育が悪かった養殖網

伊江島　泥汚れが付着した採苗網の様子

伊江漁協２階で開催した養殖勉強会

伊江島　養殖網の網掃除の様子

本部町備瀬のヒトエグサ養殖漁場

本部町リボン採苗網の様子

金武町本張り前の養殖網の様子

本部町天久氏の案内で漁場視察を実施

金武町本張り後の養殖網の様子

金武町ヒトエグサ養殖漁場の様子

金武町収穫前の養殖網の様子